

2026年度智翠館特別コース企画 探究スペシャル12

5月11日(月) 9:50~10:40

村木春花さん

(本校卒業生:学校司書)

講演および 読書会・討論会

『書に耽る!』

本の楽しみ、本を読む意味、読む本の選び方



本校屈指の読書家も参戦します!!

今年度最初の探究スペシャルは卒業生の村木春花さんにお越しいただきました。村木さんは、はじめ公務員として市役所に勤務され、現在は高校で図書館司書（学校司書）の仕事に携わっておられます。



安定した公務員の職を辞してまで、図書館司書
（高校の学校司書）の仕事にこだわった理由は
何でしょうか？



大学で社会福祉士の資格取得を目指していた頃、コロナ禍で時間の余裕ができ、たくさん
の本と出会いました。人生観が変わったり、混沌とした感情を言語化できたことに感動し、
本の世界や読書の魅力を誰かに伝えて寄り添い、応援できる仕事がしたいと思うようにな
りました。その後、公務員として勤務する中でその思いが強くなり、司書資格を取得して、
高校生の学びと成長に寄り添う学校司書の世界に飛び込みました！

前の仕事と現在の仕事との待遇のギャップ
を感じる部分もありますが、それよりも今
やりたいことに向かいたいという思いが強
いです！だから『自分の人生を面白がれ
る人間でありたい』というのが今の私のラ
イフテーマです。



今回は生徒たちにヨシタケシンスケさんの『おしごとそうだんセンター』を事前に読んでもらって、作品を読んだの村木さんの問いかけに対してみんなで話し合いました。テーマは「仕事に何を求めるか？どんな人と一緒に仕事をしたいか？」です。

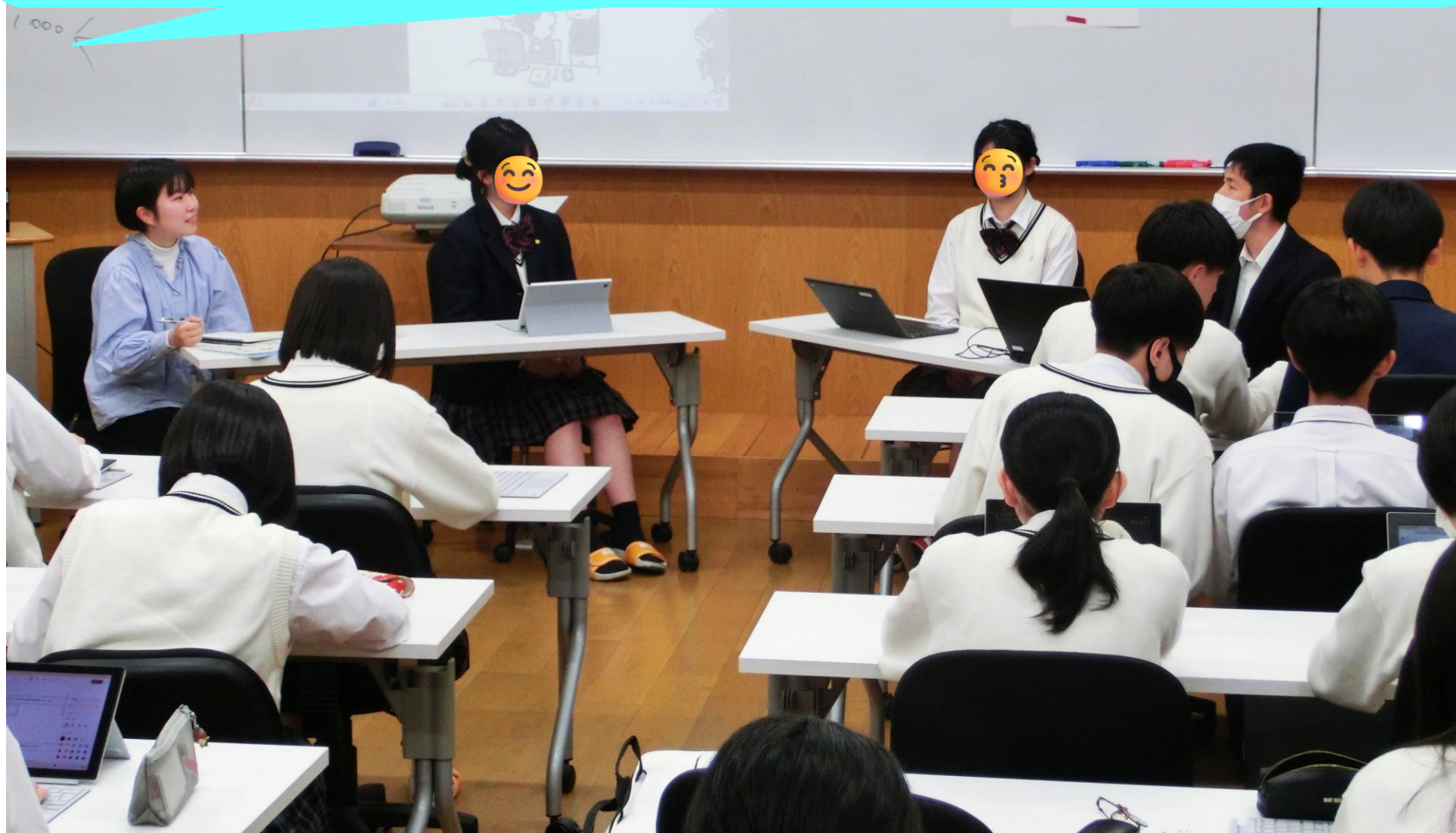
意見としては、「楽しく仕事をできるかどうか？」「（自分の成長のためにも）尊敬できる人と仕事をしたい」「苦手な人でも拒否せず折り合いをつけながら協働に努める」「仕事に就いての価値観を共有できる人と仕事がしたい！」など様々な意見が出ました。



村木さん曰く、
この課題図書を設定したのは、仕事内容や土地で選ぶことが多い仕事というものを
「どういう人」や「自分の役割」という側面からも考えてほしい・・・という気持ちから
なんだそうです。



次に3年生Aさんが討論テーマで取り上げたのは、『藝術新聞』に掲載された太宰治の『一問一答』（昭和17年4月11日発行）です。その中で「あなたは、クリスチャンですか？」の問いかけに対して、「教会には行きませんが、聖書は読みます。**世界中で、日本人ほどキリスト教を正しく理解できる人種は少ないのではないかと考えています。**キリスト教に於いても、日本は、これから世界の中心になるのではないかと考えています。最近の欧米人のキリスト教は実に、いい加減のものです。」と回答していますが、「日本人ほどキリスト教を正しく理解できる人種は少ないのではないか」の部分はどういうことを表しているかについて話し合いました。



- 意見①：キリスト教における隣人愛は対象である「他者」が思考の起点・中心だが、太宰はそれ以前の「自己」を愛せるか？という点で真逆なのでは？まず隣人を愛するには、自分を愛さないといけない。それができなかった太宰は苦しんだし、西洋人の理解や行動が教条主義的に見えたのでは？
- 意見②：太宰がもともとどう捉えていたのか知りたい。あばら家に住んでいる自分を「隣人」として周囲の人は愛してくれるのか？またそんな自分が「隣人」を愛していいのか？
- 意見③：まず自分が幸せであることが、周りを引っ張る上で大事では？自己愛はどうしたら高まるのか？
- 意見④：人と比べないことが肝要かと・・・日本人には「分度推譲」や「報恩感謝」の考えが根付いているよね。
- 意見⑤：自分に余裕がないと他の人への声掛けもネガティブになってしまう。高くありたいという理想もそこから生じる。

・・・ と、白熱した討論が展開されました！！



みなさん今日の探究スペシャルはいかがでしたか？
どうです？本を読みたくなくなってきたでしょう！？
今後、本に親しんで学びを深め、人生の糧にして行っ
てくださいね！
それでは村木さんにエールの拍手をお願いします!!



《 生徒の感想より 》

《 生徒の感想より 》

自分とは違う考え方を知ることができて良かった。自分のライフテーマを決めてそれを意識して生きていけるようにしたいです。

人それぞれの考え方があると思いました。その意見を理解しようとして、尊重することが大切だと思いました。本を読むことで、その(書かれている)内容について自分なりに考えると、自分の引き出しも増えるのではないかなと思った。少しずつでも本を読む習慣をつけて、自分の引き出しを増やしていきたいです。

「自分の人生を面白がれる人間になりたい」という言葉を聞いて時運のこれからの人生について学びを深めることができた時間になりました。村木さんが本を読むことで自分の人生を考えることができたように僕も本を読んでこれからの人生に読書という選択肢があるんだということを考えていきたいと思います。

私は本を読んだ後、必ずレビューを見ます。私とは違う受け取り方や意見を持っている人がたくさんいて面白いからです。今回の討論会も集中して聞くことができ、良い経験になりました。

《 生徒の感想より 》

《 生徒の感想より 》

私も尊敬できる人が仕事場にいれば楽しく仕事をする事ができると思いました。中学校の部活動でしんどい思いをしましたが、いつも私が成長できるように言葉を投げかけてくれ、本当に尊敬できる人でした。私の目指す職業は輸入が安定してはいないけど、好きなことをできずに後悔するよりは断然良いので努力はするだけしてみたいです。

(公開)図書討論会では、正解がないからこそ深く話し合える機会、またそれを聞くことができる機会はとても重要なのかと思いました。自分の考えを発する、人の解釈を聞き自分の考えとも混ぜてまた考えてみることで(さらに理解が)深まってよいと思いました。

私もやりたいことがあるので、それを目標に頑張りたいと思いました。
(かわいいイラスト付きで描いてくれました)



仕事は人助けのためにあるなどの考え方がすごいと感じました。自分が考える「仕事の価値観」とは違うと思いました。村木さんのような考え方ができるように日々、生活していけたらと思います。

《 生徒の感想より 》

《 生徒の感想より 》

公開図書部の討論で得意なことを活かした役割をすると話していましたが、私はそれだと組織(は)成り立つと思いますが、自分の成長はあまりしない(と思う)からどうなんだろうと思いました。そのため私は、組織で得意なことを活かして生きながら不得意なものは仲間と協力し助けてもらいながら行っていきたいです。これから社会に出ると仕事をする時間が人生の中で一番多くなっていくと思いますが、一度きりの人生を楽しめるように給料面だけでなく、自分の気持ちも大切にしたいです。

(今回の公開図書討論会で)心に響いたことがあります。それは「自分を愛してあげることがほかの人にやさしくできるようになるための土台だ」ということです。いろんな世界を知って、経験を積んで自分に自信を持てるようになりたいです。

(仕事について考える上で)自分が楽しいだけでなく、周りの人とのかわり方やモチベーションも大切だと感じました。「やりたい」という感情を大事にして仕事を見つけたいです。